

第156回日本ユネスコ国内委員会総会

次世代ユネスコ国内委員会の 活動報告と今後の活動方針

次世代ユネスコ国内委員会
2025年3月11日



次世代ユネスコ国内委員会の活動方針

ユネスコ活動の活性化に向けたの提言の概要（抜粋）

- | | | |
|------------------------|---------------------------------------|-----------|
| ユネスコ活動の活性化に向けた
(抜粋) | 1. 主に大学生を対象とした対話型ワークショップの実践 | →教育WG |
| 令和4年3月
次世代ユネスコ国内委員会 | 2. ユネスコエコパーク及びユネスコ世界ジオパークへのユースの積極的な参画 | →科学WG |
| | 3. 「ユネスコ創造都市ネットワーク」事業へのユースの積極的な参画 | →文化WG |
| | 4. 「ユネスコ未来共創プラットフォーム」へのユースの参画 | →ユースフォーラム |

ユース参画ロードマップ

＜短期：1-2年目＞

ユネスコ未来共創プラットフォーム内に「ユースページ」を開設し、SNSを活用した広報活動を開始しました。

＜中期：2-3年目＞

ユネスコとの連携可能性が高いユースによる活動を発掘し、ユネスコ活動での連携を提案し、協働でイベントを行いました。また、今年度のユースフォーラムでは、ユネスコ活動をしている大学生とイベントの運営を共創しました。

＜長期：3-5年目＞

今後については次のスライドで紹介します。

教育分野

学生：5名　　社会人：2名

科学分野

学生：4名　　社会人：2名

文化分野

学生：4名　　社会人：2名

今年度の活動概要

つくりたい未来

未来をつくる多様な施策にユースの声が反映されたサステナブルな社会

今年度の活動方針

- ①現在活動しているユースによるユネスコ活動の認知度向上や活性化 **(今年度の重点領域)**
- ②ユネスコ活動に参画するユースの裾野の拡大

事業構成

ユネスコ活動への参画層・
取組意向層と連携

1

教育

2

科学

3

文化

4

ユースフォーラム
の開催

当委員会の知名度向上と
ユネスコ活動への関心潜在層獲得

国際会議/イベントへの参加

ユースのユネスコ活動に対して関心を抱くステークホルダーの拡充

YouthNote等による活動の発信

教育ワーキンググループの今年度の実績と成果

企画名	ローカルSDGsユースネットワーク拡大作戦～地域でSDGsに取組む学生のための仲間づくり企画～(2024年9月)
対象	ローカルSDGsの取組みに興味のある・すでに取り組んでいるユースの方、ローカルSDGsに取り組むユースの活動を支援したい方
概要	きんき環境館主催のイベントにて、奈良教育大学ユネスコクラブ、OSINTechと共に企画立案に協力しました。企画では関西のローカルSDGsやESDに取り組む団体が取組紹介を行った後、参加者交流を行いました。
成果	大学生から若手社会人のユースの他、ユースの活動に関心がある方から合計42人の参加が得られました。委員会の取組について発信するとともに、 関西で活動を行う多様なユースとつながりを作ることができました。 令和7年度は同様のイベントをユースだけで実施するために、このイベントでつながったユースと企画の検討を始めています。
様子	  

他活動の実績

- 「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」にて分科会を運営し参加者と共にこれまでのユネスコ活動の意義や目的を再確認しました。(2024年10月)
- 「ユネスコわかものプロジェクト」を防災をテーマにユースを対象にユネスコクラブと共に共催しました。(2024年10月)

他活動の成果

ユネスコスクール関東ブロック大会では、都立山崎高校（ユネスコスクール）から約16名の参加者と交流し、山崎高校にて次年度の訪問授業を頂きました。さらに、玉川大学や奈良教育大学のユネスコクラブとイベントを協働で運営し、横のつながりを強化しました。

科学ワーキンググループの今年度の実績と成果

企画名	糸魚川ユネスコ世界ジオパーク×長岡技術科学大学の連携
対象	長岡技術科学大学「SDGsプロモーター」 フォッサマグナミュージアム 職員
概要	糸魚川ユネスコ世界ジオパークの魅力発信を目的として、 当委員会と長岡技術科学大学が糸魚川市で調査および体験活動を実施しました。 また、糸魚川ユネスコ世界ジオパークとの効果的な連携方法を探るため、参加者にアンケートおよびディスカッションの実施をしました。(2024年2, 8月)
成果	世界中どこからでもアクセスできるバーチャルなヒスイ探しの体験が、魅力発信の効果的な方法として提案されました。 こうした成果が糸魚川ユネスコ世界ジオパークをPRするためのVR教材開発に発展しています。2025年4月（予定）
様子	

他活動の実績

- 第14回日本ジオパーク全国大会におけるユースセッションの運営をサポートしました。(2024年8月)
- 金沢大学 / JU-MAB連携大学 SDGs世代間学習プログラムへ参加しました。(2025年2月)

他成果

- ユースセッションでは、下北、蔵王、鳥海山・飛島、山陰海岸、喜界島のジオパークで活動するユースや先生方それぞれが交流を深める機会となりました。
- JU-MAB連携大学の学生やユース団体「絆熊と黒潮」、金沢大学サークル「大学村」との交流が生まれました。

文化ワーキンググループの今年度の実績と成果

企画名	食文化創造都市臼杵ガストロノミーツアー（2025年2月）
対象	食文化に関心を有する大学生、臼杵市創造都市関係者
概要	大分県臼杵市をモデル地として、 当委員会委員が食文化について関心を有する大学生を対象にツアーを開催しました。 特産品・観光資源の視察や地域行政・まちづくり関係者との意見交換、食文化を活用したイベント事例の調査を実施しました。
成果	昨年度の次世代委員会活動において臼杵市を訪問し、創造都市関係者と意見交換を実施しました。その際に挙げられた案をベースとし、臼杵市のご協力のもと、大学生9名が参加する4泊5日のツアー開催を実現しました。ツアーでは、参加者間で 臼杵の食文化の独自性を探り、その社会的価値について議論を行いました。 今後は、3月末に臼杵市長への報告を行い、新たな学習型ガストロノミーツアーの企画提案を検討しています。
様子	  

他活動の実績

- CCNJ国際ネットワーク部会/UCCN国内ネットワーク会議へ参加し、次世代委員会の活動について発表するとともにUCCN加盟都市担当者とのネットワークを構築
- ユネスコ本部UCCN事務局日本人インターンにインタビューを実施

他活動の成果

鶴岡市の食文化創造都市加盟10周年記念イベント「つるおかふうどフェスタ」に参加しました。世界7都市の食文化創造都市行政関係者やシェフと交流し、各都市のユース活動の状況を把握しました。

令和6年度ユースフォーラムの今年度の実績と成果

企画名	 <p>Youth Forum 2024/25</p> <p>今から、ここから、わたしから ～ユースが集い、創るユネスコ活動の未来～</p>
対象	全ての方（特にユネスコ活動に関心のあるユースの方）
概要 ・ 要点	<p>ユネスコに関連する活動に取り組んでいるユースの世代縦断的、分野横断的な交流、ネットワーキングの場を創出し、ユースによるユネスコ活動の活性化を図ることを主な目的として、全体会やテーマごとの分科会、ブース出展等を通して、参加者同士で交流し、学びや知見を共有できる機会を創出しました。</p>
様子	 
<p>実績・成果</p> <ul style="list-style-type: none"> • 127名（会場80名／オンライン47名）うち、ユース参加者47人（会場）が得られました。 • ユネスコ活動を行うユース団体と連携して分科会を実施したこと、つながりを強化できました。 • 本企画をきっかけに参加者から委員会について理解が深めもらえたことで、委員会新メンバー応募につながりました。 • 世代横断的、分野横断的な交流、ネットワーキングの機会創出および学びの共有ができました。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 参加者の声：自分が興味を持っている分野のお話しや先輩方の活動を知ることができとても貴重な時間になった。（所属、年齢） 	

今年度の取り組みの成果と課題、今後の方針

取り組みの成果と課題

活動方針	<p>①既存のユースによるユネスコ活動の認知度向上や活性化</p>	<p>②ユネスコ活動に参画するユースの裾野の拡大</p>
成果	<p>各活動において<u>地域に根差したユネスコ関連団体との連携が実現しました。</u></p>	<p>委員会に対する<u>個人の認知の高まり</u>を実感しました。</p>
課題	<p>連携が実現している団体は<u>限定的</u>であり、さらに多くのユネスコ関連団体と連携していく必要があります。</p>	<p>イベントへの<u>ユースの参加者数は個人での参加は増加しているものの、団体としての参加は少ない状況</u>にあります。</p>
今後の方針	<p>現状の連携を継続しつつ、<u>ユネスコ関連団体と広く連携するための仕組みを検討します。</u></p>	<ul style="list-style-type: none">・認知度だけでなく、<u>目的や具体的な活動内容の認知を促進します。</u>・内容としてユネスコ関連の活動をしている団体との連携を促進します。

ワーキンググループにおける次年度の方針

教育	<p>地域・社会の持続可能性について学び合いによる教育の在り方の模索</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 地域の課題に取り組む学生や大学ユネスコクラブ等の学生団体と連携して、地域資源を切り口に地域・社会・世界の持続可能性について学び合う機会（ワークショップなど）を創出します。こうした取り組みを通して、ユースが主体となった教育の在り方を模索します。
科学	<p>世代と立場にとらわれない地域資源を活かした地域社会の持続可能性の模索</p> <ul style="list-style-type: none">✓ ユネスコ世界ジオパークとユネスコエコパークを活動の中心として、多様なステークホルダーを巻き込んだ地域社会の課題抽出と地域資源を活かした課題解決の方法を検討します。
文化	<p>地域が有する独自の価値を活かした社会創造の模索</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 創造都市ネットワーク（UCCN）を中心に活動を継続し、各創造都市で活動を行うユースとのネットワーク構築に努めるとともに、世界遺産や無形文化遺産にも活動領域を広げ、文化とその価値の保護・発展・継承に関するユースの理解醸成・主体的参画を促進します。

日本ユネスコ国内委員会委員の皆様へのお願い

■ 連携の可能性がある団体の紹介、広報など、さらに委員会活動の認知を広げるためにご協力いただきたいです。

次世代ユネスコ国内委員会メンバー 一覧

	氏名	属性
委員長	小林 真緒子	院生
副委員長	沖田 広希	社会人
	川端 優木	学部生
	川上 寛人	学部生
	長澤 パティ明寿	学部生
	佐藤 世壱	学部生
	西野 月	学部生
	溝渕 実楓	学部生
	畠 麻理奈	学部生
	東 和佳奈	院生
	茶山 健太	院生
	大原 瑞萌	院生
	五十嵐 薫	院生
	笠井 春菜	院生
	Alejandro Martinez	院生
	日下部 遼	社会人
	長谷川 紗子	社会人
	谷垣 徹	社会人
	菅原 彩華	社会人
	小路 楓	社会人



週一回の定例
ミーティング（オンライン）含め活発
に活動しています

END